



# くまよう通信

No. 10

令和3年1月29日

埼玉県立熊谷特別支援学校

## 『 何度でも 』

教頭 船津昭平

新型コロナウイルス感染に伴い、生活に制限が加わり「やりたいことをやる」「会いたい人に会う」「行きたいところに行く」が有り難いことに気付かされた1年でした。私の日常での変化として、週末の犬の散歩があります。小一時間、ほとんど人に合わずに里山を散歩します。川面をのぞき込んだり、遠くの峰々に季節の変化を楽しんだりしながら、犬の散歩をするようになりました。

そんなある日の散歩の帰り道、いつものルートをちょっと近道したら、何でもない落ち葉の下り坂で、アツと思った時には、転んでいました。先を歩いていた愛犬は、何が起こったのかと振り返り、不思議そうな目で私をのぞき込みます。あいまいな照れ笑いをしながらも私はすぐに立ち上がりました。散歩を再開し、進みながら思いました。「前に転んだのっていつだったろう」「転び方が下手になったなあ」「転ばないように転ばないようにしてたんだよなあ」と、つらつらと思いました。

でも、家に帰るころには考えていることが、変わってきました。「転ぶんだよな」「転んでもいいんだよな」「転んだ後が、大切なんだよな」

日々子どもたちの学校生活は、まさにこの『転んでも立ち上がる』の大小の繰り返しです。わからないことに再挑戦してわかるようになる。できないことに再チャレンジしてできるようになる。まさに学校は、『転んでも立ち上がる』練習の場所でもあることに気づきます。

そうすると、この『転んでも立ち上がる』力は、どんな力だろう。是非、その力を子どもたちの身につけたいと考えました。どんな力かすぐに答えは見つからなかったのですが、思い出したことがあります。以前、ひこうせんのおたさんに研修講師に来ていただいた時のことです。最後の質問で「学校に何を望みますか？」と尋ねたところ、しばらく考えた上で、一言「困った時にどうすればいいのか、学校の先生には教えてほしかった」と答えられました。寄居養護学校を卒業されて30年以上、社会の中で歩まれた方の一言には、これまでの人生の重さがありました。

おたさんの言葉は、ずっと心にありました。困った時、わからない時、失敗した時にどうすれば良いのかと言われて、やはりすぐに、これとは答えが出ていません。個々に違うけれども、「こうすれば」、「こうやってきたから」、「これがあるから」「そばにいるから」と思っています。でも、今の私には、どの子に対しても伝える最初の一言は決まっています。笑顔で「大丈夫、君だから大丈夫」

## 2月の予定

- 1日(月) 高等部入学選考願書受付～2日  
生徒会選挙 9:30～11:15
- 2日(火) 小・中学部入学説明会 9:30～11:00
- 4日(木) 第2回学校運営協議会 10:00～12:00
- 5日(金) 訪問高等部入学選考
- 9日(火) 高等部入学選考日(高等部臨時休業)
- 15日(月) 第2回生徒総会(高) 13:55～14:45  
進路面談(小5)～26日
- 16日(火) PTA本部役員会  
熊特スポーツクラブ
- 18日(木) 高等部入学許可候補者発表

- 19日(金) 薬物乱用防止教室 13:50～14:40
- 22日(月) 個別面談期間～3/5
- 24日(水) 大塚相談医来校 11:30～
- 26日(金) 火曜日課  
巡回教育相談解良先生来校  
English Club

